

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

### 事業名 新 国内事業者向け輸出研修会・商談会開催費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産物流通課 輸出戦略係 電話番号：058-272-1111 (内 2896)

E-mail：[c11444@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11444@pref.gifu.lg.jp)

#### 1 事業費 7,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

##### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	7,000	0	0	0	0	0	0	0	7,000
決定額									

※新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当予定

#### 2 要求内容

##### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

新型コロナの感染拡大による渡航制限や物流コスト上昇など、農産物輸出を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、一方で、家庭食へのシフトやデリバリー・テイクアウトメニューの拡大など、新たな食市場が形成されている。

こうした中、農産物輸出に関する研修会・商談会を開催することで、コロナ禍にあっても農業者等の輸出意欲を高めつつ、現地ニーズに対応した自体的な取組みを促進し、飛騨牛・鮎・柿に次ぐ新たな輸出品目の拡大を図る。

なお、県内の農業者や食品事業者からは、「まずは、輸出に関する基礎を学びたい」「現地の生の情報を知りたい」「商談機会が激減し苦慮している」などの声が寄せられている。

##### <県主催によるメリット>

- ・ 飛騨牛・鮎・柿に次ぐ新たな輸出品目の拡大につながる。
- ・ 県内事業者の輸出動向が把握できる。
- ・ 県内事業者間のネットワークが構築される。
- ・ 商品開発や渡航プロモーションを支援する県単事業への誘導が可能となる。

## (2) 事業内容

輸出研修の豊富な実績を持つ団体等に委託し、研修会と商談会を開催。

### ア 研修会（5～8月）

概要：農産物輸出に特化した講座を基礎回と発展回にわけて実施する。発展回はアジア編と欧州編に分けて実施する。

### イ 商談会（11月）

概要：アジア版と欧州版に分けて開催し、よりターゲットを絞った商談ができる機会を提供する。

## (3) 県負担・補助率の考え方

県産農産物の輸出促進は県の重要施策であり、県負担は妥当。

## (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	298	研修会、商談会開催調整に係る旅費
需用費	200	研修会、商談会開催準備に用いる当課 PR 資材費
役務費	45	研修会、商談会開催調整に係る通信費
委託費	6,457	研修会・商談会開催経費
合計	7,000	

## 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（H31.3 策定）  
3（1）④ 「ぎふブランド」づくり（情報発信・販路拡大）
- ・ぎふ農業・農村基本計画（R3.4 策定予定）  
Ⅲ ろ畜水産物のブランド展開 1 輸出拡大の強化

### (2) 国・他県の状況

国においては、農林水産物の輸出を 2020 年までに 1 兆円、2030 年までに 5 兆円を目指し、国別・品目別輸出戦略を策定する等、国全体での輸出促進への取組をさらに加速している。

### (3) 後年度の財政負担

新型コロナウイルスに係る緊急措置のため、後年度負担はなし。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・新農産物の輸出に特化した研修会・商談会を開催することで、コロナ禍にあっても農業者の輸出意欲を高めつつ、現地ニーズに対応した新たな輸出取組みを促進する。
- ・飛騨牛、岐阜鮎、岐阜柿はリーディング品目として、県主導で輸出拡大に取り組むが、それ以外の品目は民間の活力を生かして輸出拡大を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
講習会・商談会の開催	0回 (R2)			5回 (R3)	

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

### （前年度の成果）

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価)  ○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、県産農産物の輸出先や輸出量が縮小している。そうした中でも、県産農産物の輸出は、県の重要施策であり、新たな販路開拓、既存の輸出ルートの維持・拡大に資する事業を実施していく必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)	

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況及び農畜水産物の輸出入に与える影響が不透明。</li> </ul> </li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	